

カツラギ工業は、乾燥装置や蒸発濃縮装置、晶析装置などを手がける。乾燥装置は蒸気による熱で乾燥させるドラムドライヤーが主力だが、「ここから開発の幅が広がった」と對馬哲郎社長は説明する。

同社の乾燥装置などは化学品や食品などの製造工程に使われるが、納入先からは水分を7%以下にすることを求められるケースが多い。ただ熱風などによる乾燥の場合、蒸発に用いるエネルギーは、例えば100キロワットが必要になる。

カツラギ工業

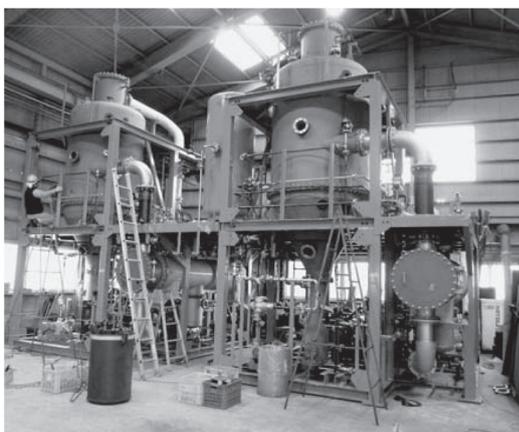
相当の物を乾燥させようとすると、同等分のエネルギーとなる蒸気が必要になる。

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦



MV R式濃縮晶析装置 開発



排水処理に使うMVR式蒸発濃縮装置（カツラギ工業提供）

「潜熱」再利用 省エネ乾燥

そこで同社は、乾燥の前工程となる蒸発濃縮や晶析の段階では、蒸発させた溶媒などを

そこで同社は、乾燥の前工程となる蒸発濃縮や晶析の段階では、蒸発させた溶媒などを

そこで同社は、乾燥の前工程となる蒸発濃縮や晶析の段階では、蒸発させた溶媒などを

「使うエネルギーに対して蒸発量は2倍以上取れる（對馬社長）ため、蒸発濃縮や晶析の工程で省エネルギー対応につながる。蒸発に必要な熱となる「潜熱を再利用する形だ。MVR式装置の開発で「当社の仕事幅が拡大していった」と對馬社長は力を込める。繰り返し潜熱を使えるMVR式濃縮晶析装置を使うと、同式を使わない場合に比べて「消費エネルギー量は5分の1から10分の1」とするの1日当たり30〜50ト規

【企業データ】所在地：大阪市西成区南津守5の4の6、06・6659・2432▽主要製品：MVR式の蒸発濃縮・晶析装置や乾燥装置など

武志（大阪編集委員・林）